

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094400019		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里 なかばる	ユニット名	
所在地	糟屋郡粕屋町甲仲原 1-20-23		
自己評価作成日	平成25年1月3日	評価結果市町村受理日	平成26年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成26年1月16日	評価確定日	平成26年2月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所の「基本理念」である「いつの感謝の気持ちを胸に、明るく、優しく、笑顔で、共に想い、支えあいます。」をモットーに、入居者様への感謝の気持ちと、職員がいつも明るく、入居者様・職員・御家族様、地域の方々と共に支え合い、想いあっていけるよう心がけている。また、入居者様には敬語又は丁寧語で接しており、馴れ合いの関係にならないよう配慮を行っている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“長寿の里 なかばる”の玄関には、入居者の方々が作られた手工芸が飾られている。手工芸やお菓子作りが得意な家族の方が教えに来て頂けるようになり、入居されている方も楽しみが増えている。入居が長い方も多く、ホームの名前の通り“長寿”の100歳代の方も生活されている。ご本人の生活ベースを大切にされており、接遇や整理整頓などの環境への配慮も徹底して取り組まれてきた。職員の入れ替わりも経験しているが、総括(管理者)を中心に職員個々の意識やレベルは上がっており、家族の方からも評価を頂いている。健康管理にも力を入れ、往診専門の宮崎内科クリニックとの契約を行い、毎週の往診が行われている。職員の観察力も深くなり、小さな変化も医師に相談し、早期対応に努めている。ホームの理念と共に、母体の会社である“パラディ”の理念には、“王冠(最高のおもてなし)”を掲げており、更に「(桃色)天の光」「(緑)地 命の誕生 育み」「(青)水」と言う3つの言葉も綴られている。社長の思いとして、それぞれに意味が込められており、今後も、職員と入居者の方々、家族の方々、地域の方々が共に想い、共に支え合っていけるように、会社の理念も大切に日々の生活(ケア)に活かしていく予定である。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念の復唱を行っている。また、初級職員研修で「組織理念・ルール」の勉強会を行っている。	キャリアパスの研修では経験年数に応じた受講ができており、初級で“理念のあり方”の振り返りをしている。「いつも感謝の気持ちを胸に、明るく、優しく、笑顔で、共に想い、支えあいます」という理念を基に、入居者の方々の残りの人生に関わらせて頂いている。“介護をさせて頂いている”と言う思いで日々のケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「夏祭り」や「敬老会」に、職員と入居者様と共に参加している。また、地域の清掃やホーム近所のお寺の法事等に職員が参加している。	年々地域の方との交流が深まっている。裏の畑の方から柚子を頂いたり、ホームの畑の雑草も地域の方が回収して下さい。ハロウィン仮装行列の時は、地域の英会話教室の子供達による慰問が行われ、ホームから呼びかけたクリスマスにも子供達が来て下さった。ハンドベルやフランスの方の慰問もあり、入居者も楽しみにされている。	運営推進会議の際に、近くの保育園児の慰問や、甲中原のボランティアの利用など、地域の身近な方々との付き合いを勧めて下さった。まずは英会話教室の子供達との交流を続けながら、少しずつ交流の範囲を広めていく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方には、認知症の対応や特性等を簡単に話しているが、ホーム主催の勉強会等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況(入院等も含め)や職員の研修状況、ホーム内の取り組み等を報告している。	入居者の楽しみを増やすための意見を頂いている。会議を通して、家族の方が講師になり、月2回の「手工芸」を探り入れる事ができ、区長様の働きかけもあり、ホームの行事に甲中原のボランティアの方が慰問に来て下さった。粕屋南部消防署の方が「防火について」の講和もして下さい、勉強の機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営の事や、御家族様の問い合わせの件等で、相談や報告に伺っており、こまめに担当者に報告・相談・連絡を行うように努めている。	25年度から、役場の方が運営推進会議に参加して下さいる機会も増えている。地域密着型になった時に、粕屋町から最初に指定を受けたホームであり、更新申請等で役場を訪問した時にも日々の報告をしている。職員の体制や医療行為について役場に相談に伺った時も、親身にアドバイスをして下さいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット入口の自動ドアは9時～18時までは電源をオフにしており、手動で開閉ができるようにしている。また、日常生活の中では、身体拘束に当たる行為を行っていないか、ホーム会議や業務の中で確認を行ったり、拘束内容の確認を行っている。	各職員の意識付けも含め、身体拘束・リスクマネジメント委員会を中心に定期的に勉強会を行っていく予定にしている。センサーマットも身体拘束と考え、家族にも説明し、職員見守りの中での生活が送られている。睡眠薬を服用していた方も睡眠状況を把握し、必要のない方は中止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で、虐待行為に当たらないか、各職員で意識しながら入居者様のケアにあたるよう、ホーム会議や朝礼等で話している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が2名いる。今年はまだ後見人についての勉強会は開催していない為、ホーム会議等で行っていきたい。	24年11月に成年後見制度の勉強会が行われ、キャリアパスの中でも、継続して研修を行う予定にしている。入居前から成年後見制度を利用している方もおられ、入居後に制度利用になった方もおられる。今後も制度に関するパンフレット等の準備を行い、他の入居者や家族への説明をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約後も何か疑問や不安に思う事がないか面会時に訪ねたり、電話等で連絡して頂くように話している。また、法改正があった時は、面会時等に説明を行い、契約の取り交わしを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては、行政や国保連等も窓口としており、各ユニットの玄関ホールに意見箱を設置している。また、面会時に気軽に意見を言える環境を心掛けている。運営推進会議や家族会等で意見を頂き、臨機応変に対応できるようにしている。	運営推進会議や行事と同じ日に家族会(年2回)を開催し、家族同士の会話も弾んでいる。職員から積極的に家族に挨拶を続け、なるべく本音を話して頂ける雰囲気を作ってこられた。家族からの意見も増えており、「家族で手伝える事やできる事は協力します」との事で、おやつ作りや手芸を再開する事ができた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ケアカンファ等で意見を聞いている。また、普段の業務で出た意見も含め、改善できる所や入居者様のためになることは取り組むようにしている。	統括は職員と協力し、日々の課題を改善してこられた。職員から「緊急時の対応(救急車の呼び方も含め)の勉強会」の希望があり、ホーム会議での勉強会と普通救命講習にも参加できた。看取り支援に関しても、「自分達の対応がどうだったのかを主治医から聞きたい」という意見があり、先生との意見交換が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や特別手当等、給料面で努力している。また、個々の介護経験や能力に応じて研修に参加している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	真剣に仕事に取り組む姿勢があれば、年齢性別問わず採用している。	“縁”を大切にしており、採用時の面接は時間をかけている。面接ではホームのプラス面とマイナス面も伝え、“仕事へのやる気”を確認している。職員の年齢幅も広く、男女の職員が勤務している。個別面談も行い、必要に応じてユニット間の人事異動も行われている。まじめな職員ばかりで、指導の仕方に関しての情報交換を続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内研修での勉強会や、ホーム会議・ケアカンファ、申し送り等で入居者様に対する接し方や対応について話している。	統括や管理者・主任などは、日々の申し送り時に、言葉遣いや尊厳の視点での関わりの大切さを職員に伝えている。「寝かせる」ではなく「寝て頂く」。「食べさせる」ではなく「食べて頂く」など、言葉の使い方を丁寧に指導している。接遇等の研修を行う中で、職員の意識付けもでき、尊厳を保持した関わりが増えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験の年数に応じた事業所内研修を取り組んでいる。また、能力に応じて社外研修にも出来る限り参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修への参加。他施設への見学も行っていきたい。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常のコミュニケーションの中で、要望等を聞いたり、表情を観察し、不安な顔をされている時等はさりげなく話をし、聞き取るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時等に、今までの生活や、自宅等での生活状況等を聞きながら、困り事や不安事等を聞き取っている。また、アドバイスができる部分は行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外の外部サービスの導入は行っていないが、日常生活で直ぐにケアが必要なサービスに対しては対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事のお手伝い、食器拭き、洗濯物たたみ、新聞折り等といった事を、入居者様と職員も共に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に食事介助を行って頂いたり、月2回の手工芸で、家族から習いながら入居者様、職員も共に行っている。また、家族会等のイベント時に後片付け等を家族も一緒に行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出や、友人の面会等、これまで通り継続出来ている。	家族や友人が訪問して下さり、面会を楽しんでいる。家族と一緒に行きつけの美容院等に出かけたり、「墓参りに行きたい」と言う要望を叶える事もできた。ご本人から「ルクルに昔言っていた」と言う会話もあり、一緒に買い物に出かけたり、以前行っていたお店から、お饅頭やパンを家族が買ってきて下さる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ食卓同士の方との会話が以前よりよく見られるようになっている。また、他の方との交流を好まない入居者様には、職員が言葉かけを随時行うようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者様のご家族との関わりは殆どないが、退居された方のその後の受け入れ先等のフォローは行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で「したい事」等、要望が聞き出せるようにしている。また、職員本位とならないように、入居者様主体となるように努めている。	各入居者の担当を決めており、普段の会話の中で希望を伺うようにしている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を担当職員が作成し、入居者の心情が把握できるように努めている。意思疎通が難しい方も、職員が根気強く声かけを行い、思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が面会に来られた時に、自宅で生活していた頃の話などを伺ったり、入居前にも生活歴を聞き取っている。知りえた情報は職員にケアカンファ等で情報を共有するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝や夕方の申し送りで、確りと一人一人の状況を申し送っている。また、業務に入る前に個人介護記録や管理日誌、申し送り帳を読んでから業務に入るようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に家族に状況報告と、要望を聞き取り、ご本人の要望ももとにケアカンファや申し送り等で情報を共有し、プランに反映できるようにしている。	ご本人と家族、主治医の意見を基にケアカンファで話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。“ご本人自身の計画”という視点を大切に、洗濯物干しや買い物、縫いものなども計画に盛り込まれ、体操やケアピクス、レク等のリハビリの視点も大切にしている。ご本人の要望等を、アセスメント用紙にも記録していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉を入れながら、状況が分かりやすい記録を書く様になっている。また、午前と午後の状況を確り書き取るようにしている。プランの内容も記入している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のその日の状況を見ながら、その時に応じた支援が行えるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加の継続や、ホーム行事等での地域ボランティアの導入で地域との繋がりを深めていけるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の受診先等を、宮崎内科と一緒にご家族様との話し合いを設け確認を行っており、なるべく希望に添えるように宮崎内科とも連携を図っている。	希望の病院に受診できるが、24時間体制で対応して下さる協力医療機関に変更される方が多い。往診専門の宮崎先生との連携は職員の安心になっており、看護師の訪問もあり、相談できる環境が作られている。職員や家族が通院介助しており、受診結果の共有もできている。各主治医と急変時の連絡方法も決めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師巡回時や先生との往診時に状態報告を行っている。また、熱発や転倒、異変時等は管理者報告後、必要に応じて宮崎内科への連絡を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員・管理者共に定期的に面会を行い、担当看護師に状態を聞き取っている。また、ソーシャルワーカーとの連絡や情報交換も行うようにしている。退院受け入れがいつでも出来るように体勢を整えるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制加算の同意を得ており、重度化に対する指針や、看取りの内容について説明を行っているが、入居後も疾病の進行状況や身体状況に応じ、かかりつけ医・事業所・御家族様で今後の方針や対応について話し合いを行っている。	ご本人の自己決定を大切に、主治医、家族との話し合いを重ねている。25年4月、協力医療機関との連携で終末期ケアが行われ、主治医と訪問看護師も直ぐに駆け付けて下さった。統括からの“悔いの無いように”と言う言葉を胸に、精神誠意、ホームでできる事を行わせて頂いた。訪問看護も利用し、点滴も行われ、弐号館では初の終末期ケアであり、職員全員で勉強会も行われた。	運営推進会議でも、終末期や胃ろうに関する意見交換が行われた。今後も、医療面の対応可能な範囲を明確に明記すると共に、個別の説明も続けていく予定にしている。今後も職員の終末期に対する知識を深めるために、勉強会を続けていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を受けており、ホーム会議等でも救急時の対応について勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練を行っており、緊急連絡網で職員全員に緊急時の連絡が行きわたるにしている。また、地域の防災訓練にも参加し、災害時等の協力体制を依頼している。	25年12月には入居者の方も一緒に昼間想定訓練が行われた。「甲中原地区防災訓練」に参加し、避難場所を確認すると共に、地域住民の要援護者をピックアップするなどの取り組みも行われた。災害時は、地域の支援者が救助支援に来て頂けるようになっており、災害に備えて懐中電灯や水等を準備している。	今後も、実践しながらの訓練が行えるよう、職員全員の意識を高めていく予定にしている。夜間想定訓練・災害時に指揮をする方の訓練・隣の新施設との協力体制・災害時の備品を準備するなど、災害に備えた対策を進めていく予定にしている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には「敬語」もしくは「丁寧語」を統一しており、ホーム会議や申し送り時に言葉使いを気をつけるように話している。	言葉遣いに注意を払うよう、申し送りの時に繰り返し職員に伝えている。接遇を大切に、命令調にならないように注意している。居室に入る時も、ご本人に伝えて入室しており、付き添いを嫌がられる時は無理強いせず、距離を置きながら見守りをするなど、ご本人の意向を優先している。情報管理も徹底している。	繰り返しの言動が見られる時や、食後のトイレや洗面が重なる時に、時に職員の気持ちに余裕がなくなり、語尾が強くなる場面が見られるとの事。以前に比べて改善されているが、今後も法人の理念も含めて、理念を振り返り、対策の検討を続けていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給の飲み物、食べたい物、入浴など、入居者様の希望に沿ってケアを行うようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の入居者様の精神的な状態や、身体状態を見ながら無理強いをせず、入居者様に合わせた支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服装ばかりにならないよう、着替えの時に気をつけたり、化粧をされる入居者様には、常に手元に道具を用意し、いつでも行って頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いの声かけに応じて下さる入居者様と共に、食材を混ぜたり、盛り付け、お茶や水を注ぐ等のお手伝いを行って頂いている。出来る限り入居者様と行うようにしている。	給食委員会で献立を作成している。本部から届く食材以外に、代表が新鮮な野菜や魚を届けて下さり、旬の料理が作られている。味付けや野菜の切り方のアドバイスを入居者がして下さり、食事中は音楽を流し、職員も一緒に会話を楽しまれている。両館合同で食事をしたり、家族を招いての食事会も行っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル・排泄・食事・水分表があり、その表をもとに入居者様一人一人の状態把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に歯磨きを行っており、ある程度自力で磨いて頂き、磨き直しの必要な入居者様には介助を行っている。また、入居者様と御家族様の希望により、定期的に訪問歯科を利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導を行い、訴え時にもその都度対応している。また、入居者様の表情や、行動を観察し、トイレを察知できるようにしている。	布の下着の方もおられる。パッドの大きさも個別に検討し、職員同士で排泄に関する情報共有をしている。入居者の表情や行動等を観察し、トイレのサインを察知するように心がけている。定期的なトイレ誘導で尿とりパッドの枚数が減った方もおられ、家族からも排泄支援へのお褒めの言葉を頂いている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や、水分量は1日1500ccを目安に摂取して頂くようにしている。排泄チェック表で排便状況を把握し 排便一日目から申し送っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本1日おきに入っている。入浴前に声かけを行っており、無理強いにならないように気を付けている。	湯温や入浴時間などの希望を大切にしており、入浴を嫌がる方には、ご本人の好きな話しをしながら浴室まで誘導している。入浴時は会話を楽しめ、1つのユニットでは袖子やみかんの皮などを湯船に浮かべている。心身状況に応じて、慣れた職員が対応する事もあり、できる範囲、洗える所はご自分で洗って頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態を常に観察し、夜間の睡眠状態を考慮しながら日中は臨機応変に対応している。就寝時の居室での過ごし方は入居者様の希望に沿っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が服用している内服情報を薬箱の側に置いており、職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更や追加等があった時は申し送りを確実に行うようにしており、申し送り帳にも記載している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いを好まれる方、散歩や外出等が好きな方など、入居者様の好みに合わせ支援を行うよう努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に事業所行事で外出を行っている。また、その日の天候や気候、入居者様の状態を考慮し、散歩や買い物に行っているが、今年は猛暑だったこともあり、買い物の機会が減っている。	車いすの方が増えており、駐車場や排泄場所などの条件も考えながら外出場所を検討している。近くの地藏尊まで入居者と散歩し、地域の方と挨拶を交わしたり、鷲与丁公園ではバラや桜などのお花見を楽しまれた。イオンモールでは大好きなアイスクリームを食べたり、買い物もされている。両ユニット合同の外出も多く、レンタカーなども利用し、季節に応じて福岡タワー、大宰府天満宮(梅)、海の中道(コスモス)の花見も楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者様がいないが、個人の預かり金は事務所金庫で保管し、使用する際にその都度出している。個人で買い物に行った時等に使っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや、年賀状を入居者様に書いて頂いており、電話の要望があれば要望に添えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所には不要な物を設置せず、模様替えも必要最小限にとどめている。また、大きな音をたてないように配慮を行っている。装飾品も家庭に近い物にしている。	書道が得意な方に“事務所”や“トイレ”等を書いて頂いている。入居者の便宜を考慮した整理整頓を続け、落ち着いた雰囲気作りに努めてこられた。リビングには季節の飾りがあり、手芸が得意な職員が作られた布の飾り物は好評で、25年度は家族にご指導頂き、手芸を採り入れている。どこからでもテレビが見えるようにソファの場所を工夫し、入居者主体の空間作りを続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングにはソファや大型テレビを設置し、自由に過ごして頂けるようにしている。また、入居者様の状態に応じ、居室で過ごして頂いたり、夜もテレビ鑑賞等が自由に行えるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が使用していた家具や、お仏壇、布団類等を持ち込んで頂いている。入居後も家族や本人の要望に応じ、自宅で使用していた物を持ち込んで頂いている。	居室の入り口には職員手作りの小さな着物や魚の飾り物が下げられている。テーブルやソファ、テレビ、ラジカセ、CD(カセットテープ)等の他、大切な位牌や病院の先生から頂いた木彫りの仏像などを置かれている。ご本人と家族が中心になってレイアウトを考えており、心身状況に合わせてベッドや家具の配置を工夫している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要な飾り物や障害物はなるべく設置しないようにし、混乱や転倒に繋がらない様に配慮している。また、手作りの装飾物や季節に応じた装飾物で落ち着いた環境となるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			